

介護老人保健施設 ライフサポートひなた 柳澤 諭 (PT)

功 績 デイケアを休んでおられる利用者さんそれぞれに、不活発予防のためのリハビリ例を盛り込んだお手紙を差し上げ、休止中の利用者さんのADL低下予防に努め利用者数の改善に寄与している功績

推 薦 者 リハビリテーション部門長 黒川 良輔

推 薦 理 由 直接PTの指導のもとでリハビリをしていく本来の日常が戻るまでの苦肉の策として、時を待てない状況の中で、柳澤職員が実践している取り組みは、休止者の不活発予防に着実に寄与するものであり、また再開のきっかけを作り休止中の利用者さんを通所利用へと導いた功績を理事長賞に推薦させていただきます。

内 容

4月～5月は新型コロナウイルス感染を恐れて、通所リハビリを長期にわたりお休みになる方の数が28名とピークに達していました。デイケア職員は、一丸となって、少しでも利用者さんにリハビリに戻っていただけるよう、ご利用時間帯や座席配置、食事時のアクリル衝立使用、レクリエーションの方法など感染対策に様々な工夫をまいりました。

また、通所リハビリ部門で実践している感染予防策の具体例を、一同写真入りのお手紙とともに郵送しました。しかし、依然としてご自宅にこもりがちな利用者さんが一定数いらっしゃいます。これまでのリハビリでせっかく広がってきた可動域が縮小し、休止者のADLが低下しないよう、理学療法士の柳澤職員は、お手紙でご自分でできるリハビリメニューをお届けすることを思いつきました。

具体的には、厚生労働省からの情報で国立研究開発法人 国立長寿医療研究センターが作成した高齢者のための在宅活動ガイドの中の「不活発予防パック」(廃用性症候群を予防するための体操パッケージ)をカラーで印刷し、お手紙を添えて利用者さんに郵送しました。また、お手紙が届くころにはお電話も差し上げ、リハビリの具体的なポイントについてアドバイスを行ない、「不活発予防パック」(廃用性症候群を予防するための体操パッケージ)の1～15の各種運動の組み合わせ2つを選び利用者さんの状況を確認しながらアドバイスを行ないました。そして利用再開へ繋がるよう、近況の確認を行なって通所利用へと導きました。

それらの行動により、利用者さんの数も徐々に戻りつつあり、新型コロナウイルスで休止中であった28名の利用者さんのうち20名が既に利用再開をしております。